



学校だより

## 子どもの未来をみんなで創る

平成 29 年 6 月号

神奈川県立相模原中央支援学校

6月7日に梅雨入りした関東地方ですが、あまりまとまった雨が降っていません。しばらくは少雨という情報です。いずれは、梅雨らしい天気になるのですが、雨が降らなければ、それはそれで気になるものです。このところ季節を感じる要素が少しずつ崩れてしまっているように感じます。

学校では、高等部の生徒の現場実習が終了しました。校外での実習も組まれていましたので、学校とは違った環境で過ごす生徒もいました。生徒たちは緊張もしたでしょうし、疲労もたまったと思います。体調を整えてまた日々の活動を頑張りたいと思います。今回の実習の反省は、次の実習に活かしてください。

さて、県立特別支援学校では、現状の学校評議員制度から新たな学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入について検討を始めました。コミュニティ・スクールは、保護者や地域の方々为学校運営に直接参加することから、より地域に開かれ、地域に支えられた学校づくりが期待できます。幼児・児童・生徒にとっても地域にとっても多様な効果が期待できる制度だと思えます。本校でも平成 30 年度に導入に向けた検討準備に入っていきます。今後保護者の皆様にもいろいろとご意見を伺う場面もあるかと思えますので、その際は、よろしくお願ひします。

校長 片岡充彦

## 子どもの未来を共に支えるサポーターとして

本校では、教員や専門職等をめざす学生を対象に、年間をとおして様々な実習を受け入れていきます。教育実習、介護等の体験、インターンシップ、見学実習等がこれにあたります。今回は、教育実習と介護等の体験について紹介します。

6月12日より教育実習が始まりました。初回は、高等部知的1年と中学部知的1年への配属です。担当教員の指導のもと、教科等の学習場面だけではなく、日常生活の場面全般にわたって支援を行う教員の役割を体験します。また、生徒下校後は、授業づくりの検討や学級経営について指導を受けながら、次の日に生徒を向かえる準備をしています。特別支援学校での授業づくりや学級経営は、チームで行います。2週間ではありますが、3人よれば文殊の知恵、チームの力を持ち帰ってほしいです。今年度は、4大学7名を4回に分けて受け入れていきます。

6月15日、16日の2日間にわたり、介護等の体験が行われました。それぞれの学生が各学部・部門に配属され、幼児児童生徒との交流、移動の介助、授業の準備・後片付け、放課後等の教室整備等を体験しました。伝えることと伝わることの違い、気持ちが伝わることのうれしさ、幼児児童生徒に話しかけたり、一緒に活動したりする中で、それぞれたくさんの気づきを持ち帰りました。この経験を、今後の学びの中でさらに深めてほしいです。今年度は、3大学74名を受け入れます。

受け入れに際しては、本校でオリエンテーションを実施し、人権への配慮、個人情報保護の目的をもって実習に望むこと等について指導しています。実習をとおして、子どもの未来を支えるサポーターの輪が広がっていくことを願ひながら、学生を見送っています。

教務グループ 佐々木

